2014年7月全日本大学選抜チームスペイン遠征
近況報告　第1報：スペイン ムルシア県 LA　MANGA　CLUB (Cartagena)より

スペインLA　MANGAの大会に参加！

2015年度光州ユニバーシアード大会の強化策の一環として、7月7日より14日までの日程で全日本学生選抜のスペイン遠征が始まった。当初は日本のU-21代表と同じ世代に当たる全日本大学選抜、スコットランドU-21代表、サウジアラビアU-21代表に地元チームを加えた 4 チームによるリーグ戦形式の国際大会が計画されていたが、サウジアラビアチームのビザ問題等で大会開催が流れかけるも、スペイン3・4部の2チームに加え、当地にキャンプに来ているイングランドBRIGHTON & HOVE ALBION FCのU-21チーム（トップチームはイングランド2部リーグ=チャンピオンシップリーグ：プレミアリーグの下に所属。U-21チームは昨シーズンU-21リーグの2部リーグで10チーム中7位）と我が全日本大学選抜の 4 チームリーグ戦となったようです（現段階でも、本当に大会形式かどうかも分りかねてますが)。

関西から9名も選出

今回の選抜チームは、別添付資料：メンバーリストにあるように、関西学連から、おそらく過去最多となる9名が選出されています（20名中)。このようなことは前代未聞で、大商大、大体大が全国的に大活躍していた１９８０年代初頭でもあり得なかったことです。2012年度本学が総理大臣杯を制し、インカレベスト4、2013年度大体大が関西勢として久し振りにインカレを制し、また選抜クラスでもデンソーチャレンジカップにて2012年度関西選抜が優勝、2013年度準優勝、更には年間通して『関西ステップアップリーグ』（在関西の J リーグチームの若手中心のメンバーと関西選抜によるリーグ戦（関西協会レベルでの公式戦扱い）など、関西勢の躍進、強化・底上げの努力の賜物であります。また、選抜選手を輩出した各所属チームの選手発掘・リクルーティングから強化・育成の努力でもありますし、全日本選抜の神川監督（明治大監督）以下コーチ陣、全日本大学連盟技術委員会、強化部会の面々の公平な眼によるものでもあるとも考えられます。

昨夜、神川監督と談笑したおり、彼が「選抜に召集すること、ここでサッカーへの姿勢を明確にし、トレーニングよって向上させ、選ばれて良かったと実感させること、それを選抜としての結果につなげることによって、『全国の大学サッカーのレベルアップ』を図りたい」と、述べていました。私より年下ですが、奢った気持ではなく、素晴らしい志だと感じました。強化に関わる者は一握りの選抜プレーヤーの向上だけでなく、その選抜強化の営みを通じて、全ての所属チーム・個人の活性化・レベルアップにつながるという本来の『強化』のあり方を示さなくてはならないと常々思っていただけにうれしく思いました。

オシムさんに例えるのは抵抗があるでしょうが、オシム氏の日本代表への選手召集にはみな驚かされましたけれども、こういう基準でプレーしたら自分も選考される可能性があ

ると示した点で、間違いなく J リーグそして日本サッカー界が活性化したのを、私自身目の当たりにしたので、神川監督がそういう意気込みを持っていると思うと、一層気を引しめなければならないと感じました。すき好みではなく、あらゆる面でという意味を込めて『能力』に対する平等性、これこそ根本的に我々に求まられるものでしょう。

（因みに日本代表ドーハの悲劇時のオフト監督もそうでした。当時無名の森保一をボランチ＝アンカー役に抜擢したとき、《もり》《やすいち》て誰だ！などという笑い話が出るくらいでしたが、チームに必要な選手の能力を見出したのには感心させられましたが・・・《もりやす》《はじめ》です。今や日本人監督としてサンフレッチェ広島を二連覇に導くなど素晴らしい監督に成長されていることはご周知でしょう。）

スペイン遠征に至る一連の強化

今回の遠征に至る一連の強化計画は、昨年の 9 月から 11 月にかけての強化部会での度重なる摺合せを通じて、以下の流れの中で発掘、選考、強化を積み重ねてきました。

1）昨年 12 月の 1 次選考合宿から（インカレ前に東京・国立スポーツ科学センターで実施）、

2）2 月の宮崎選考合宿　：本学でいうと松下佳貴（流通学部３年）が後期リーグ、インカレの活躍ぶりを買われてここから召集、準備ゲームの京都サンガ戦でいい仕事をして選抜内での足
場を築く→ 全国地域選抜大会である「デンソーチャレンジカップサッカー西都大会（2 回の選考合宿を経て 1,2 年で編成された全日本大学選抜）、

3）その後優秀選手による、時の 3 年生を加えた「タイキャンプ」 → 3 月末の日韓大学定期戦（隔年交互開催）の「デンソーカップ」、

4）１）～３）時点で選考外になったが、新年度４月以降のリーグ戦で活躍している選手（本学でいうと八久保颯（経営情報学部３年）のような）、怪我で外さざるを得なかった選手に加えて、新入生で著しい活躍を４月の段階から見せている選手を招集して行った５月の東
京キャンプ（国立スポーツ科学センターを活用）・・・本学でいうと、1 年生の脇坂や山口等。

5）6 月上旬に、現オリンピック代表候補である U-21 代表と同時期に合宿を張った大阪堺 J-GREEN でのキャンプ：最終日に大学選抜と U-21 代表との試合が組まれ、双方前後半でメンバーを総替えするゲームでしたが、何と２－１で大学選抜が逆転し、その 2 点とも本学八久保（4 月の前期リーグの活躍が認められて初召集）が突破し挙げたものでした。

こういう経緯で今回の遠征メンバーが決まっていったのです。

キャンプの地：LA　MANGA　CLUB ＝ 一大リゾート施設

添付資料にもあるように、LA　MANGA　CLUB はムルシア県の地中海側に位置します。コンドミニアムや別荘などが数個の小山や丘に点在し、ジム付の SPA 施設や各種プール、立派なレストランやショッピングマーケットのほか、ゴルフ場に天然芝のサッカー場 8 面、サッカー場と兼用のクリケット場、さらに、テニスコート 20 面、自転車コース、スキューバダイビングプールを兼ね備えた、一大リゾート施設です【北（地図の上側）の塩水湖、南側（地図の下）の地中海】に挟まれ、自然の中に盛り込まれたスポーツとレジャー＆保養施設といった感じで、自然を作られた人工的自然に変貌させる日本のリゾート施設とは趣が異なっているような気がします（外国が素晴らしく日本がダメという意味ではなく、共生関係を上手く作っているように感じます。）！

さて、7 月 6 日の夕刻、羽田のホテルに集合し、翌朝 5 時にチェックアウト、5 時半から渡航手続きを始め、朝 7 時 30 分出国、まずパリへ。そこでマドリッド便に乗り換え、そこから観光バスで夕食休憩含めて 5 時間以上かけてムルシア県 Cartagena にある LA MANGA　CLUB の一角 LAS　LAMOS　VILLAGE に到着！なんと現地時間 7 日の夜中 0 時 30 分、日本時間 8 日朝 7 時 30 分でした。
かくして全日本大学選抜の 2014 スペイン遠征が始まりました！

初戦：CD　Algar（スペイン 4 部リーグ）

こちらはコンディション的には 6 日ゲーム、7 日一日かけて「食っちゃ寝」移動（ちょうど 24 時間：マドリッドから当地までは 5 時間のバス移動で現地夜中の 12 時半到着）、8 日２部練習、9 日朝練習の流れで、選手には厳しいかもしれなかったと思いますが、19 時キックオフの初戦地元 4 部チーム相手には 2－0 で勝利。ドタバタすることなく、安定した試合運びだった。弱い相手に対しどっちつかずのゲーム展開をしてしまう欠点が、少しは克服しつつあったという点では成長したと言っても良い。

しかし、相手が練習再開後の初試合で明らかにコンディションに差があり、こちらのボールの動かしや球際でついてこられないのは当然であり、こちらもたいしたプレーを展開しているとは思えない。相手が Fall Back した（自陣に引いて守っている）状態の時に、こちらからの崩しにも「スピードアップのタイミング、リズム変化、創造性あるアイディア」不足があり、言ってみたらボールを回しているだけ、楽にサイドは取れるのでサイドからクロスを上げるだけといった、今までの課題を克服しているとは言い難いという評価も、一方では出来るという状況であった。

しかし、【相手ペースの時にはしっかり守って、相手に振り回されず耐える時はしっかり耐える】ことは、ある程度このチームには浸透しているが、その積み上げとして、【相手ペースに嵌らないように、こちらがボールを持っていて速攻はできないが、ボールを失ってしまうと崩れそうな時、ボールを動かしながらゲームをコントロールし、突破の糸口を探す】という課題改善への一歩とみれば、無駄にボールを失わなかったという面では進歩し

ているともいえる。ただ、如何に突破につなげるか、これが一番難しいし、相手のコンディション不良を考え合わせると、不満だが・・・、という課題が残る、というところでしょうか！

松下、八久保ともに先発、前・後半でメンバー入れ替える予定で臨み、故障者（徳永・上半期の阪南大戦 2 試合で爆発的に活躍した関学大のボランチ）1 人含んでいるので FP（フィールドプレーヤー）17 名で、後半 3 名だけがそのままプレー続行。松下は 90 分出場。代えてもらえなかったのはボールを回すだけで、ペースアップのリズムを刻めなかったという点で『懲罰的プレー続行』の意味合いもあったのかもしれない。最近余り試合経験のなかった小林を、後半も行けるところまで行かせる予定で、ミスが目立ち始めたタイミングで、再度八久保が投入され、2 人はたくさん試合経験を積むという点ではよかったのかもしれません。

7 月 6 日のファジアーノ戦から中二日のこの試合。総理大臣杯に向けた何らかのシミュレーションと考えれば、OK です！厳しく見れば課題は残りますが、決定機には松下・八久保両人が絡み、チャンスは松下のきっかけから作られることが多く、1 点目も松下から左へ、小林が絡み、ニァゾーン（ペナルティボックスのラインとゴールエリアの間のスペース）からクロス→八久保がボレーシュート（少しミスキック＝あたりそこない）、こぼれを現在リーグ得点数トップの関学大呉屋が押し込んで先制、というように絡んでいます。

ただし、松下が打てるとこで打てない（打つ意欲あったがボールコントロールが流れる）。突破の時に小林に L カット（内側に切れ込んで走り込むプレー）して欲しいと思いながら（たぶん・・・？）、動いていないのにスルーボールを出してしまう。プレーメーカーとしてつなぎ役だけじゃなく、突破に関わる強いパーソナリテイを持ってもらいたい、コミュニケーションを取るだけでなく主張力、強い発信力を滲み出していく強さ・リーダーシップを身に着けて欲しいね！

八久保は、サイドは楽にとれ、先発右サイドバック、明治大の室屋がボールを持った時ニァゾーンでもらいたいと思ってサポートしているが（こちらもたぶん・・・？）、ボールを出してもらえないときの確認、要求の仕方という点では主張の足りなさがありますね。前・後半とも寄せられた場面で、ボールを失わないだけでなく局面を打開してくれるのはチーム的には有効だが、ワイドの突破役とみると、4 年生の専修大仲川に比して物足りないし、決定的な 3 点目を取れるところで相手 GK にぶつけてしまうなど、「けつが青いぜよ」と感じました！

皆の成長を祈って、まずは第一報・・・！